

■東北地方太平洋沖地震 気仙沼（2分22秒）-映像解説-

<映像の概要>

映像は、海上保安署から見た、津波の来襲状況です。

警報と緊急放送が鳴りひびくなか、フェリー船や車両が津波で押し流されています。津波の速さや、押し流す力の強大さがよくわかります。

<災害の概要>

- 平成23年（2011年）3月11日（金）、午後2時46分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が起きました。揺れの強さを示す「震度」はもっとも強かったところで7、地震の大きさを示す「マグニチュード」は9.0となりました。

これは、これまでに日本国内で観測された中で最大です。

この地震は、大津波や余震をともない、東北地方から関東地方にかけて、大規模で深刻な災害をもたらしました。

多くの方が犠牲になり、家や仕事を失い、また漁場や農地が打撃を受けました。

この地震により亡くなった人、行方が分からなくなった人は19,578人（消防庁公式サイト「被害報」より、平成23年11月30日現在）とされていますが、その9割以上は津波によるものです。

津波は北海道から沖縄まで全国の海岸で観測されました。特に岩手県、宮城県、福島県の沿岸部では多くの方が津波にのまれ、建物が流されるというたいへんな被害をもたらしました。

また、福島県双葉郡にある東京電力福島第一原子力発電所が、この地震および津波により大きな被害を受けました。

これにより重大な原子力事故が起き、放射性物質が大気中に放出されたため、被災地をはじめ、広い地域にわたって生活に影響をもたらしています。

さらに、関東・東北地方で地面の液状化現象が発生し、千葉県、東京都といった東京湾沿岸を中心に大きな被害がありました。

いっぽうで防災や、被害を受けたあとの対策の大切さがあらためて見直されました。また、平成7年（1995年）の阪神大震災をきっかけに広まった「災害ボランティア」の活躍や、それを支援する動きが見られました。

- 宮城県気仙沼市では、沿岸部に大きな津波が押し寄せたため、1,028人の方が亡くなり、10,958の建物が全壊・半壊するなど、いちじるしい被害がありました（平成23年11月11日現在）。その後の調べでは、海面から20メートルを超える地点まで津波のあとが観測されています（宮城県の調査）。

<映像の流れ>

映像は以下の流れのとおりです。

見出し	内容
津波が車を押し流す様子 (00:00 ~01:27 付近)	海岸沿いにある海上保安署から撮影した、津波が堤防を越えてくる様子です。署の横の駐車場にとめてあったたくさんの車が津波に次々と流されていく様子を見ることができます。
津波がフェリーを押し流す様子 (01:28 ~02:02 付近)	津波の勢い・高さが増してきて、岸壁にとめてあったフェリー船も流されていく様子を見ることができます。
タンクがたおれたところ (02:03 ~02:22 付近)	津波が、撮影している海上保安署の建物の下まで到達した様子を見ることができます。

撮影日時：平成23年（2011年）3月11日 午後3時ごろ

撮影場所：宮城県気仙沼市、気仙沼海上保安署の気仙沼合同庁舎

撮影者：気仙沼海上保安署